

「遺伝について知る」

情報はあなたと家族の力になります。



当院は、遺伝性の乳がんや卵巣がんについてのご相談に対応しています。
お1人で悩まずに、お気軽にご相談ください。



**次のいずれかにあてはまる方は、
がんの詳しいリスク評価を受けることが勧められています。**

NCCN Clinical Practice Guideline in Oncology[Genetic/Familial High-Risk Assessment: Breast and Ovarian (v.1.2011)]「詳しいリスク評価対象者の基準」より

- がんを発症したことのある方で、次に1つでもあてはまる。
 - ・ 若年発症の乳がん（日本では40歳未満の発症が該当します）
 - ・ トリプルネガティブ乳がん（ER- / PR- / HER2-の乳がん）
 - ・ 2個の原発性乳がん（両側性乳がん、片側に複数の（別の）乳がんなど）
 - ・ 男性乳がん
 - ・ 卵巣がん / 卵管がん / （原発性）腹膜がん
- 乳がんを発症したことがあり、血縁者に次にあてはまる人がいる。
 - ・ 50歳以下で乳がんを発症（少なくとも1人）
 - ・ 卵巣がん / 卵管がん / （原発性）腹膜がん*を発症（少なくとも1人）
 - ・ 乳がんや膵臓がんを発症（2人以上）

* 診断された時の年齢は問いません。

これらの項目にあてはまるからといって、遺伝性の乳がん・卵巣がんであると診断されるわけではありません。詳しくは、主治医までお尋ねください。

Q 乳がんや卵巣がんは遺伝することがあるの？

A
がん細胞そのものが親から子へ伝わることはありませんが、乳がんや卵巣がんになりやすい“体質”は、遺伝することがあります。

これまでの研究から、「BRCA1 遺伝子」、「BRCA2 遺伝子」と呼ばれる2つの遺伝子のどちらかにがんの発症にかかわる変化（変異）があると、乳がんだけでなく卵巣がんにもなりやすいことが分かっています。遺伝子検査によってそのような変化（変異）があることが分かると「遺伝性乳がん・卵巣がん症候群」と診断され、それに合った予防・検診や治療が推奨される根拠になります。

また、その遺伝子の変化は、親から子へ性別に関係なく1/2（50%）の確率で受け継がれるため、血縁者で共有していることがあります。そのため、遺伝性かどうかを判断することは、ご血縁者の健康管理に役立つことがあります。

Q どんな場合に相談すればいい？

A
CHECK! にあてはまる方は、主治医までご相談ください。

がんの原因に合った適切な診療を受けるために、遺伝性かどうかを判断することは大切です。当院には、遺伝性の乳がん・卵巣がんに関する詳しいスタッフがいます。ご本人やご家族（血縁者）の既往歴などをお聞きし、それをもとにがんの詳しいリスク評価を行います。

そして、その結果に基づいてひとりひとりに合った治療や予防対策に関する情報を提供します。遺伝性かどうかを判断するのに役に立つ遺伝子検査についても説明します。その他、遺伝に関する心配、ご家族のことなども安心してお話ください。プライバシーには十分に配慮しています。



東京女子医科大学 附属遺伝子医療センター

- ・ 診療日 : 月曜日～金曜日（完全予約制）
- ・ 診療ご予約・お問合せ : 03-5269-7509 平日午前9時～午後5時
- ・ 遺伝カウンセリング費用 : 初回 1時間（1万5千円、以降30分毎に加算）
遺伝カウンセリングはすべて自費診療です。
また、遺伝子検査は別途実費がかかります。

遺伝性の乳がん・卵巣がんについて詳しくお知りになりたい方は、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.familial-broa.jp>

遺伝性乳がん 卵巣がん

検索

かんたん検索！